

平成28年度第2回「恵庭市史編さん委員会」会議録

日 時：平成28年11月22日（火） 15：30～16：30

場 所：市役所（3階）301．302会議室

出席者：＜委 員＞ 北越会長、山田副会長、中泉委員、平中委員、江里口委員、
村上委員、山口委員

（欠席者）曾根委員、高橋委員、宮田委員

＜事務局＞ 後藤企画振興部長、大槻企画振興部次長、
溝企画・広報課長、高橋市史担当主査ほかスタッフ

＜委託事業者＞ 対馬、村上、佐藤

傍聴者：なし

1. 開 会

2. 会長挨拶（要旨）

春の編さん委員会では、今年度の事業計画等についてご審議をいただいたが、本日はこの事業計画に基づき、外部執筆者ならびに年表についてご意見を頂戴したい。

※議事に入る前に、大槻次長より曾根委員、高橋委員、宮田委員の欠席を報告。

3. 議 事

北越会長が議長となり、議事を開始。

(1). 協議事項1 外部執筆者について

議案資料に基づき事務局及び委託事業者より下記の説明を行った。

- 「先史時代」は元札幌国際大学の関口明教授
- 「恵庭の近代」と「基地と恵庭」は旭川工業高等専門学校の平野友彦教授
- 「気象」は札幌管区気象台から内諾を得ているが、執筆者氏名は未定。
- 「地質」は地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所の広瀬亘氏。
- 「動植物」は恵庭にゆかりのある2，3の候補者にあたったが不調に終わり、現在、北海道博物館の学芸部長を通じて検討中。動植物は動物、植物、鳥類、魚・昆虫と細分化しているため2～3人に依頼することもあり得る。北海道博物館での人選がうまく運ばない場合には、環境問題も含むため地質研究所に依頼する可能性もある。委員の皆様からも適任者の推薦・情報をいただきたい。
- 他の部分は、監修者である田端宏・桑原真人両氏が担当。

<質疑応答>

A委員 恵庭は基地を有するまちだが、「基地と恵庭」の分野については特に厳正中立を保つ必要がある。

回 答 筆者は監修者である田端・桑原両先生の研究仲間で、他自治体市史の執筆経験を有する研究者である。また、すべての筆者の原稿は監修者の監修を経た後、委員の方々にも確認いただくものである。

A委員 了解

議 長 その他、意見・質問はないか。なければ、大筋はこの通りでよろしいか。

一 同 了承

(2). 協議事項2 年表について

議案資料に基づき事務局及び委託事業者より下記の説明を行った。

■お手元の年表は平成27年5月までの掲載で、昭和53年までは現市史に則って作成し、それ以降は市民の活動、活躍なども入れ込んでいる。

■今回の委員会では全体の体裁、項目の量などについて検討いただきルール作りをし、それを元に統一していきたい。

■今後は記述と年表の整合性を図る中で年表項目の加除も必要。

■年表は全体の4%、ページに換算すると50ページ強の予定だが、すでに95ページとなっている。今後、平成27年5月以降の項目と、専門家の原稿から年表への追加項目があることを考慮すると、かなり精査が必要。

■今回の委員会では「こういった類の項目はいらないのではないか」というような、全体に関わるような事柄や体裁についてご意見をいただきたい。

■今回、年表をこの段階で提出し、準備期間を多くとっているのは、年表の重要性を重視していること、執筆の参考資料として活用するためである。

■本日、確認いただきたいことは下記6項目。

①年表の全体体裁について

年表は読みものではなく検索を主目的とするため、文字サイズは、本文よりもサイズを一級小さくした。また、「道内・国内外の出来事」は、実際は既に記載済みだが、今回は恵庭市の出来事の内容を中心に見ていただくため空欄となっている。

②「蝦夷」を「エゾ」と表記することの可否について

現在の「エゾ」表記は既刊の市史を踏襲したもの。監修者の桑原先生は、和人の管轄下の事柄は漢字、それ以外はカナ表記にすることで蝦夷地の勢力状況を把握できるのではないかと示唆を得ている。

③見え消し部分の要・不要について

一件の年表項目に対して具体的な説明がある場合、説明部分を削除している。また、各年の作況、戸数人口なども見え消しにしている。

④昭和53年以降の出来事で、必要な項目、不要な項目について

項目の要・不要を検討いただきたい。

⑤皇室に対する尊敬語について

皇室に対する尊敬語に関しては、所管する宮内庁の表記に準じている。

⑥その他、お気付きの点があれば伺いたい。

<質疑応答>

会 長 それではまず、全体的な体裁について。

B委員 先ほど全体の4%とすれば50ページという話があったが、削減していくということか。

回 答 今の段階で削減するということではなく、こういう類の項目は削除しているのではないか、逆に不足している項目はないかなど、大きな範疇の中で議論いただきたい。

A委員 前の市史でも年表はよく使っていた。この体裁は見やすく異議なし。

一 同 了承

C委員 見え消しの意味をもう一度説明して欲しい。

委託事業者 昭和53年までは、既刊市史掲載項目をそのまま掲載していることから、中には不要な項目もあると考える。例えば、既刊の年表には毎年の作況が掲載されているが、不要という判断も可能。それらを見える形で消してあるので、不要と判断された場合にはページ数を削減できる。

C委員 農業は恵庭にとって重要なので、簡単に消していいものか。

事務局 農業は恵庭の主産業だったので、昭和20年までは見え消しにしている。全体を圧縮しようとするなら、作況を削除していく考え方もある。

会 長 この件について他に意見があれば。

一 同 なし

会 長 それでは、これに関しては③の方で改めて整理することとする。

ひとつ確認したい。西暦と元号の表記について、元号が先で西暦を後にすることで問題はないか。

委託事業者 先の委員会で協議・決定いただいた執筆要領に沿ったもの。

会 長 了解

D委員 エゾの表記だが「地名は漢字」、「動植物に関することはカナ」で統一してよいのでないか。3p.の「エゾ人」は、かつては「アイヌ」が蔑称だったのでエゾ人としたのだろう。今は「アイヌ」と表記して問題ないだろう。

一 同 了承

会 長 次に、見え消しについて、どう整理していくか。

A委員 今回は資料をもらってからじっくり検討する時間がなかった。よって再度検討する時間を設けることは出来ないか。

事務局 それでは、明年2月を目処に第3回編さん委員会を開催し、そこで確認事項の③見え消し部分の要・不要についてと、④昭和53年以降の出来事の要・不要について、を精査することはいかがか。

一 同 了承

会 長 その他お気付きの点について。

- A委員 41p. 昭和48年8月11日に「観光協会がすずらん踊りを開始」とあるが、これは誤り。市の経済部と商工会が共同で始めたもので観光協会ではない。
- E委員 私もそのように記憶している。
- A委員 2点目は48p. 昭和56年6月21日「電離層のいたずらで恵庭市防災行政無線に広島県世羅郡甲山町電波が混信」とあるが、この「いたずらで」という表現には違和感がある。「電離層の異常により」、あるいは「異常現象で」にすべき。3点目は49p. 昭和57年5月9日「桜公園のサクラ植樹に多数の市民が参加」とあるが、主催は青年会議所で、10周年記念事業として実施し3000人以上が参加した。きちんと主催者名も入れるべき。
- 事務局 ご指摘の3点は修正する。
- 会 長 それでは明年2月に改めて検討することとし、各委員は次回の委員会までに再度の確認を願う。

4. その他

- 会 長 その他、何か。
- 事務局 今年度の執筆予定である「自然・地勢」「都市計画と市街地の広がり」「集落のあゆみ」「都市間交流」の原稿が1月末から提出される。これら原稿について5月の委員会で議題としたいと、委員の方々には3月頃から順次原稿を送付させていただくので、確認・校正をよろしくお願いしたい。

5. 閉 会